保育現場の音楽表現活動の実態と短大教育の在り方に関する研究
― 保育者養成校における音楽教育 ―

大野 惠美[a]　赤井 裕美[a]

[a]湘北短期大学保育学科

【抄録】

現在、幼稚園や保育所などでは保育者の確保が激化しているが、その一方で保育者の全般的な質の低下が危惧されている。音楽教育の面では、採用試験で音楽実技を試験内容から外す園も増えているという。また、本学でも入学者の半数以上が音楽実技の初心者、又は未経験者である。

では、保育現場で音楽実技に関して必要とされる力とはどのようなものなのか。保育現場での音楽表現活動は減少しているのか。またそれらのもと、養成校に期待されることはどのようなことなのか。現場の状況を知ることによって、短大における実践的な指導内容を考察する。

【キーワード】

音楽表現活動　童謡　遊び歌　ピアノ教育

1. 研究目的

本学の卒業生を対象に、保育現場で行われている音楽表現活動の現状について調査を行い、どのような活動がなされているかについて把握する。その結果から、短大における音楽表現活動に関する授業の在り方について考察する。

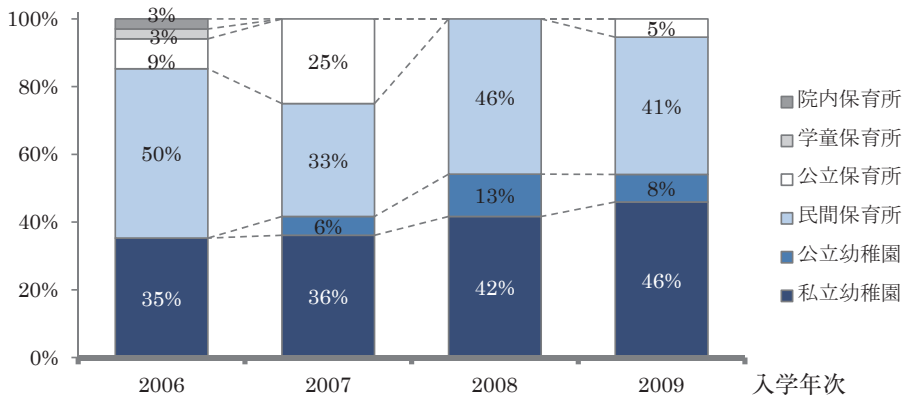
2. 研究方法

本学を2006年度から2009年度に入学し、現在、幼稚園、保育所に就職している卒業生に対して、現場での音楽表現活動、それに合わせた養成校における音楽教育の必要性に関するアンケートを行った（郵送調査票、回収率：27.9％、回答者数：131人、図表1参照）。

3. 結果と考察

本稿では、保育現場における音楽表現活動状況を、童謡・遊び歌・ピアノ・パフォーマンスに分け、これら4テーマにおける実際の活動状況と音楽教育の必要性について現場がどのように考えているのかを分析し、考察を行った。

図表１　卒業生（回答者）の勤務先



Ⅰ．保育における童謡の活用状況と短大教育

まず、園において童謡がどの程度歌われているかを調査した結果が、図表Ⅰ－1である。この結果を見ると、どのタイプの園においても童謡はかなりの頻度で歌われていることがわかる。特に民間保育所において、童謡を「とても良く歌う」／「良く歌う」と回答した比率は97％にまで上る。

次に、童謡をどのようなシーンで歌うのかを調査したものが、図表Ⅰ－2である。この結果を見ると、「月の歌」と回答するケースが最も多く、続いて「行事の歌」との回答が続いている。現場では、童謡は比較的時間をかけ、子どもにしっかりと定着させることに重きを置いていることが推察される。

また、実際にどのような童謡が活用されているのかを調査したものが図表Ⅰ－3である。ここでは回答が多かった童謡の上位10曲のみを掲載しているが、アンケートでは135曲もの童謡が挙げられた（巻末の補表1を参照）。この結果から、童謡の選択肢は幅が広く、園の方針や教員・スタッフの方針によって様々な曲が使われていることがわかる。また、「よく歌われる／子どもの好きな童謡」の多くは長く愛唱されてきたものであり、ピアノ伴奏の面から見ても難しいものではなく、初心者でも短大の2年間で充分に習得可能な曲と考えられる。

これらを踏まえ、幼稚園、保育所の各園では総じて「童謡の必要性を強く感じている」との回答が多く（図表Ⅰ－4参照）、保育の中では童謡を通して子どもと関わる頻度が高いことが窺われる。

以上の現場における活用状況を踏まえて、「短大教育の中で童謡を習得する必要はあるか」と質問したところ、幼稚園、保育所のどちらも概ね100％が「必要」との回答であった（図表Ⅰ－5参照）。

では、なぜこれほど多くの「必要」という回答を得たのであろうか。その理由について、サンプル的ではあるが2006年度入学生の自由回答を分析した結果を図表Ⅰ－6に記す　（巻末の補表2も併せて参照）。

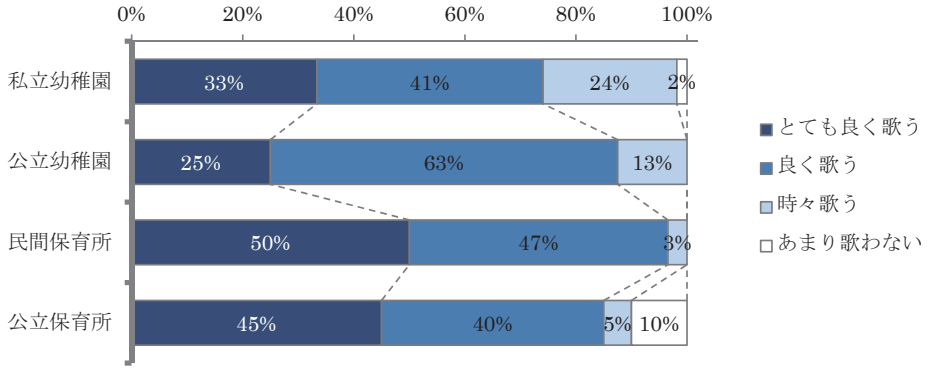
これらは「実用性の存在」、「時間的制約の存在」、「キャッチアップのしやすさ」、「教育的効果の期待」という4つのパターンに分類することが可能と思われる。

内容を分析すると、回答の約半数が「保育現場で童謡を歌う」という実用性について記されている。そして、保育の現場では子どもと空間を共有

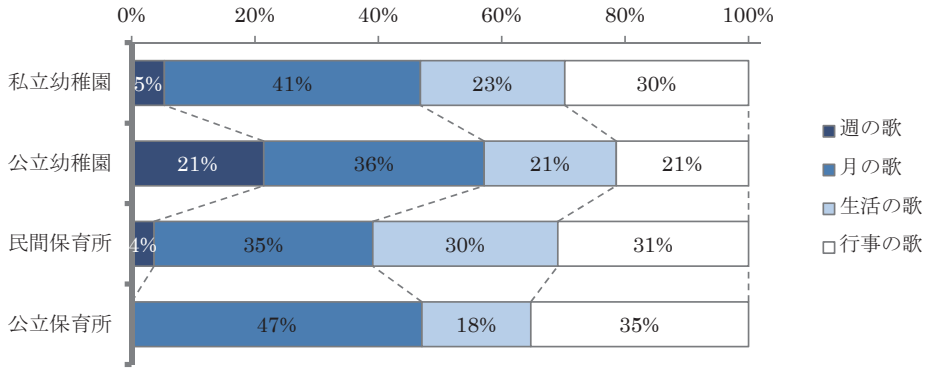
する上で童謡の必要性が大きいと捉えられており、子どもの成長の側面や教育的側面を踏まえてその重要性を認識していることが理解できる。しかし、実際の仕事上は多忙であるため、そこで知識を広げ、歌のみならずピアノ伴奏をも習得することは困難であること、また、童謡を知らない／やっていないことが、保育士間や保育の仕事そのものに影響してくることも記されている。

これらの回答から、現場では学ぶ時間がないということだけではなく、童謡が子どもとの関わりの中で重要と考え、子どもの感性を育てる成長の段階での役割を担っていること、また、童謡が保育の仕事に携わる者として当然身につけておくべき知識や技術として捉えられており、現場に出てからの学習では遅いと考えられていることがわかった。すなわち、短大教育における童謡の弾き歌いの習得は、保育者を目指す学生にとって欠くことのできない重点課題といえる。

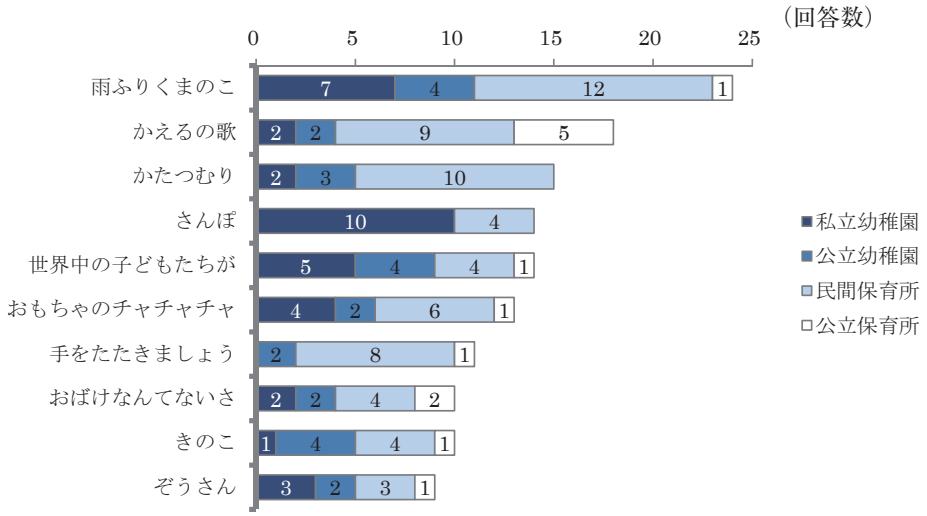
図表Ⅰ－１　園で童謡を歌う頻度



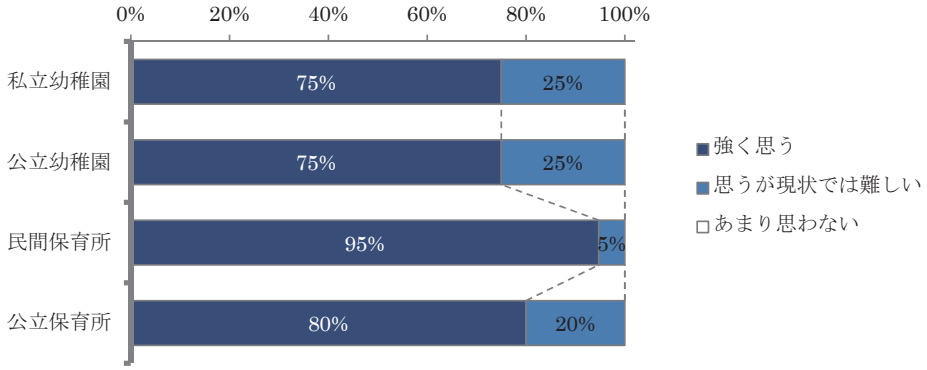
図表Ⅰ－２　園で童謡を歌うシーン（複数回答・可）



図表Ⅰ－３　園で良く歌われる・子どもの好きな童謡（上位 10 曲）



図表Ⅰ－４　園における童謡の必要性



図表Ⅰ－５　短大教育における童謡の必要性

図表Ⅰ－６　短大教育で童謡習得を必要と考える理由（自由回答形式）

実用性の存在	21人	・園でよく使っている ・短大時代に練習したことで、自信を持って童謡を弾くことが出来る ・幼稚園、保育園どちらも勤務したことがあるが、必ず子どもたちと一緒に歌っていた ・現場でよく使っている。右手でメロディを弾いてあげると子どもたちも音をとり易いと感じているように見える
時間的制約の存在	6人	・現場に出ると、日々忙しすぎてピアノを練習する時間がない ・現場に出てから覚えるのでは遅すぎる ・就職してからは残業ができない、ほかの仕事がある
キャッチアップのしやすさ	8人	・周りの保育士が知っていて自分の知らない曲もある ・先生が歌を知らないと職員の話についていけない ・やる／やらないに関わらず、いざという時に役に立つ
教育的効果の期待	8人	・リズム感や表現力を育てるためにも必要だと思う ・今の子はあまり童謡を知らないので、教えてあげた ・童謡はピアノを使う（ピアノの音は子どもに良いと思う）

Ⅱ．保育における遊び歌の活用状況と短大教育

童謡と同じように、園において遊び歌がどの程度活用されているのかを調査したものが、図表Ⅱ－1である。この結果から、どのタイプの園でも遊び歌は高い頻度で活用されていることが明らかとなった。

次に、実際に活用されている遊び歌について調査したものが、図表Ⅱ－2である。紙面の都合上、回答が多かった上位10曲のみを掲載している（巻末の補表3を参照）。なお、全体として84曲と多くの回答が挙がったことからも、保育の中では遊び歌も幅広く活用されていることがわかる。いずれも広く知られているものではあるが、遊び歌はピアノ伴奏を伴わないものが多く、童謡よりも習得が容易であるため、短大教育の中で多くの遊び歌を習得していくことの重要性が、この結果からも明らかとなった。

保育の現場では、遊び歌は自然な生活の流れの中に存在し、保育者と子ども・子ども同士の遊びを中心とするコミュニケーションツールの一つである。図表Ⅱ－3に挙げたアンケート結果にもある通り、保育現場において遊び歌は「必要である」との考えが多くを占めている。

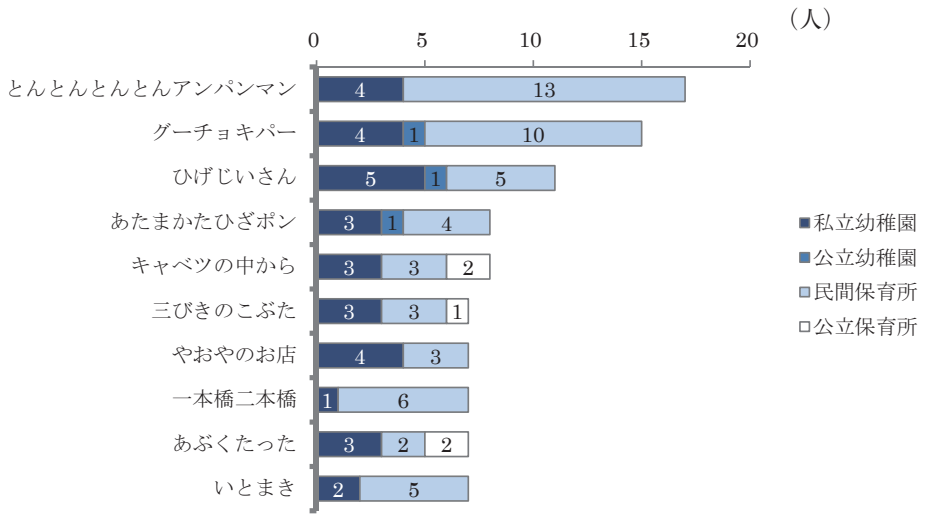
なお、もう一つの調査結果である「遊び歌の学習方法」を図表Ⅱ－4に挙げた。本アンケートに

おいては自由回答としたため、サンプル数を多く集めるには至らなかったが、「先生・保育士からの習得」と「子ども同士のネットワークからの習得」という大きく2つの回答パターンが得られた（巻末の補表4を参照）。

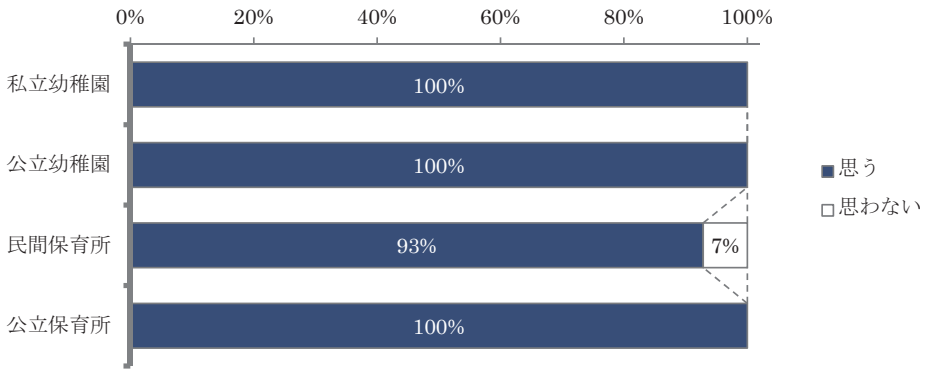
遊び歌は、保育の導入であったり橋渡しであったりと、子ども同士の触れ合いには欠かせないものであり、遊びながら集中力や身体表現力を養うことにも繋がる。短大教育の中で身につけられる場面の例として、授業や学生間、文献考察から覚えた遊びを保育ボランティアや実習で実践し、その繰り返しによって対象となる子どもとの遊び方に工夫が生まれる、などがある。「遊び歌の学習方法」のアンケート結果にもあるように、遊び歌は短大教育の中で習得するのみならず、現場での研修や保育経験者からの伝承によって形を変えながら浸透していく。遊び歌は、保育の仕事の中で知識を積み、より多く身につけていくことによって保育の仕事そのものを豊かにしていくことができるツールといえる（巻末の補表5を参照）。

図表Ⅱ－１　園における遊び歌の活用の有無

図表Ⅱ－２　園で良く歌われる／子どもの好きな遊び歌（上位 10 曲）



図表Ⅱ－３　園における遊び歌の必要性



図表Ⅱ－４　園における子どもの遊び歌の学習方法

パターン	具体的な回答
先生・保育士から覚える	• 先生・保育士の真似をして覚える • 保育士が楽しそうにやっていると自然に覚える
子ども同士で覚える	• 子ども達の中で、兄弟のいる子などから伝わって、自然に行っていることが多い • 最初はゆっくり、できる子どもの真似をしてもらう • 年長さんが発表し、下の子どもと遊ばせる • 繰り返し、楽しんでいるうちに覚える

Ⅲ．保育におけるピアノの活用状況と短大教育

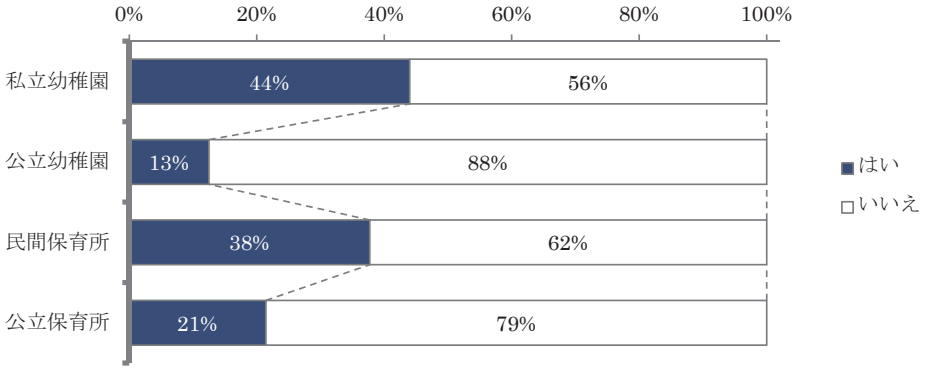
本節においては、音楽活動を支える基盤としての楽器ともいえるピアノ（鍵盤楽器）が、保育現場でどの程度活用されているのかを明らかにする。

まず、ピアノの活用状況について調査した結果を図表Ⅲ－1に示す。なお、この項目で扱う「ピアノ」とは童謡の伴奏以外のものであり、単独でピアノ曲などを演奏する場面のことである。

現場でのピアノ活用の頻度は、園のタイプによって差が見られること、及び、絶対数としてピアノ活用がマイノリティな位置づけにあることがわかった。この事実に関して少し掘り下げてみたい。

まず、「ピアノを活用している」と答えた回答者が日常でどのような曲を演奏しているのかを調査したものが、図表Ⅲ－2である。本アンケートは自由回答をベースに得られた結果であるため、網羅性があるものとはいえないが、「子守歌」などのように日常生活の中で使われている他に、行事や催し物の中でピアノが使われていることがわかった。

図表Ⅲ－1　園内における音楽活動におけるピアノの活用状況



次に、「現場ではピアノがどの程度必要と考えているのか」を調査したものが図表Ⅲ－3である。この結果を見ると、園におけるピアノの必要性をあまり感じていないという回答が約40％ある反面、それと同程度の割合で、ピアノが不要というわけではないが現在の園生活の中に新たに取り入れることが難しい／保育の仕事と時間との制約が問題となり取り入れるのが難しい、と考えていることがわかった。

このような結果となる背景についても、アンケートにおいて自由回答の形で検証を行ったが、それらは大きく2点に分類することが可能と思われる。

第一として、ピアノ環境について挙げることができる。回答の詳細については巻末に記載するが（補表6）、「園によってさまざまなので必要はない」とピアノを使う／使わないのスタンスについて記されたものや、「現場ではCDを使っているので機会がない」との回答から窺われるように、園でのピアノ環境の乏しさが上記結果の一つの要因になっていると考えられる。

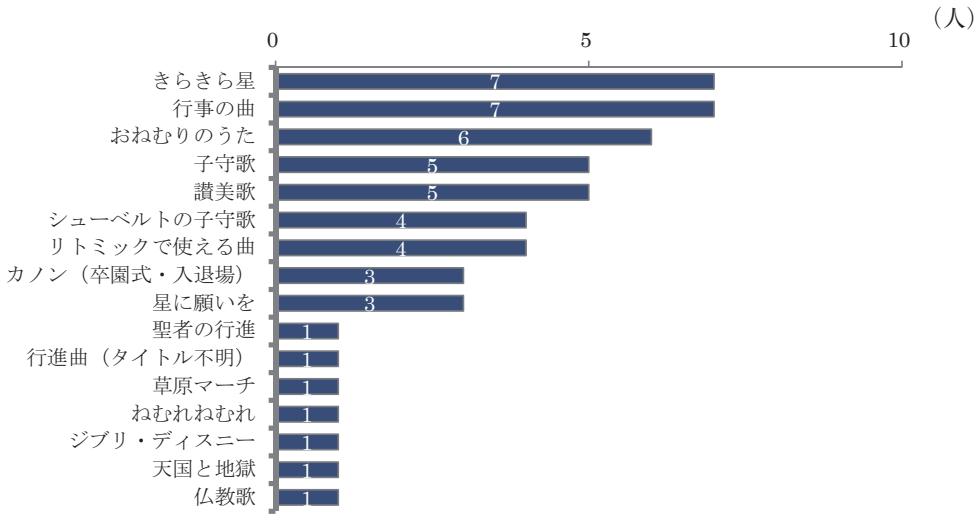
第二として、活用する音楽の幅の広さを挙げることができる。「ピアノ曲より、J-POP、アニメソング、童謡が主」といった回答からも窺われるように、ピアノの活用以外にも多様な音楽活動を行っているケースが多いことが、上記結果のもう一つの要因になっていると考えられる。

いずれにせよ、現時点ではピアノが園での音楽活動を直接的に支える基盤となってはいないこと、また将来的に見ても、ピアノが音楽活動の基盤となり得るとの考えが少数であった点は認識すべき事実である。

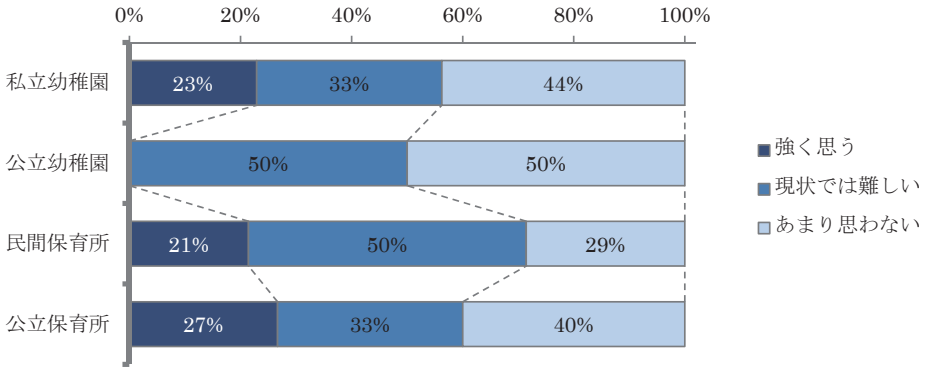
しかし、図表Ⅲ－4に挙げた「短大におけるピアノ教育の必要性」について調査した中で、「必要」とする回答の約半数が、ピアノ学習の重要性を「現場に出てから」実感している（巻末の補表6を参照）。

この現場の実態と教育への要望の乖離はどこから生じているのか。その点を探るため、2006年度入学生の自由コメントを領域別に整理すると、図表Ⅲ－5のようになった。特に「必要」とする回答にあるように、「リトミックなどに役立つ」、「基本的なリズム習得に必要と思う」といった他にも、「現場に出てから練習するのでは遅い」、「現場である程度のピアノ技術を求められる」などと、ピアノ曲の習得が保育現場に出る以前に必要不可欠であると考えられていることがわかった（巻末の補表6も併せて参照）。

図表Ⅲ－２　園で演奏するピアノ曲

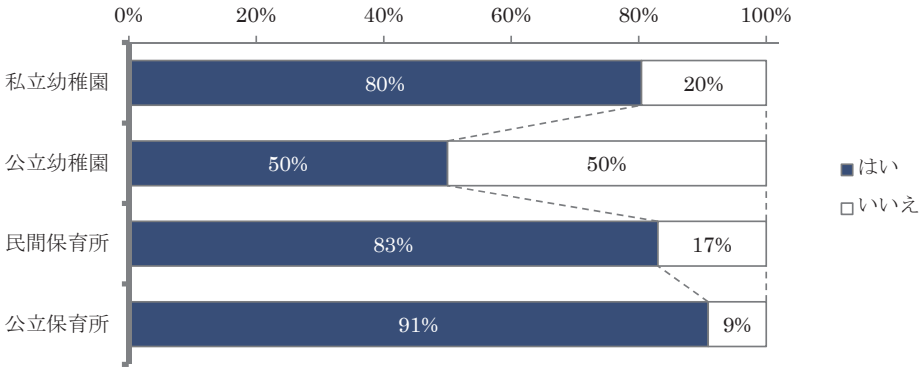


図表Ⅲ－３　園における音楽活用でのピアノの必要性

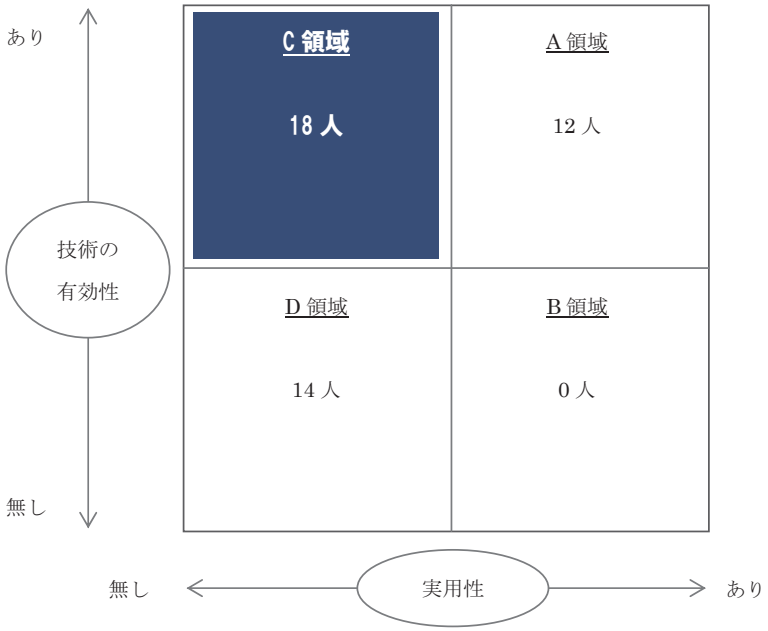


以上の結果を踏まえると、短大でのピアノ教育について、現場でピアノ曲を使う／使わないという実用性からではなく、ピアノの基礎的技術や保育の内容での有効性を「学習意義」とする考え方が多いことがわかる。つまり、現場ではピアノに関して、実務としての必要性は高くはないが、技能の習得によって間接的なメリットを享受できることも含めて「必要」と捉えられている。すなわち、短大の2年間におけるピアノ教育は、保育者を目指す学生にとって大変有効、且つ重要であるといえる。

図表Ⅲ－４　短大におけるピアノ教育の必要性



図表Ⅲ－５　短大教育でピアノ教育を必要／不要と考える理由（自由回答形式）



A 領域の代表的なコメント

・現場に出てから練習するのでは遅い

・よく合唱をする

D 領域の代表的なコメント

・現場ではほとんど使わない

・保育現場では、J-POPやアニメ、童謡が主

C 領域の代表的なコメント

・基本的なリズム習得に必要と思う

・スキルアップができる

・リトミックなどに役立つ

・今の園では使わないが、別の園で使うかもしれない

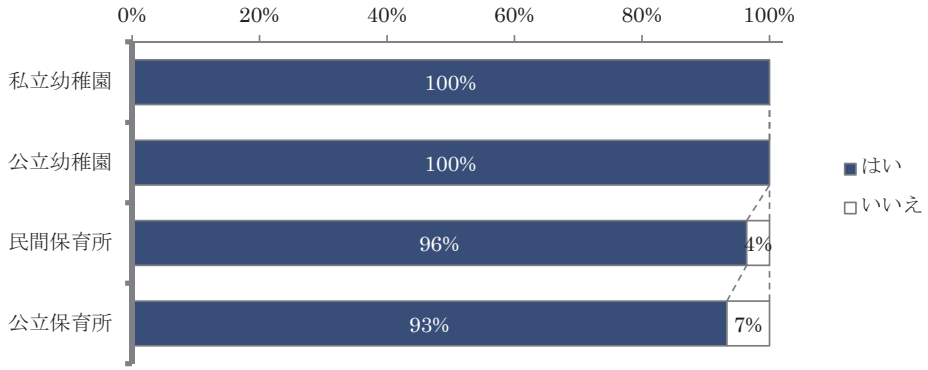
・学生生活を、目標を持って過ごせる

Ⅳ．保育におけるパフォーマンスの活用状況と短大教育

園におけるパフォーマンスの種類は多岐にわたることが想定されるため、本稿では発表会の実施状況がどの程度なのか、どのような発表会を実施しているのかに着目して調査を行った。そのもとで、短大教育の中ではどのような形で指導がなされるべきかについて考察する。

まず、園における発表会の実施状況を調査したものが図表Ⅳ－1である。この結果からは、ほとんどの園において発表会が実施されていることが窺える。

図表Ⅳ－１　園における発表会の実施状況



また、園で実施する発表会の内容について、多くの自由回答を得ることができた。

図表Ⅳ－２　発表会の例

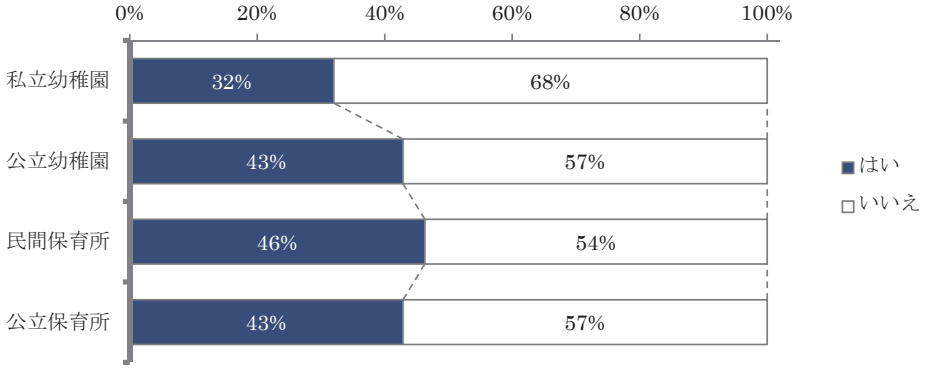
種類	内容
ミニコンサート	歌 カスタネット メロディオン
コンサートと劇	年少：歌（振り付）、手遊び 年中：劇遊び、歌、手遊び 年長：劇、歌、手遊び、詩
音楽会	メロディオン 合奏
生活発表会	セリフ 衣装、大・小道具 ※先生からの出し物も実施

種類	内容
お遊戯会	年少：ダンス 年中：CD を使い舞踏劇 年長：セリフを録音して舞踏劇
音楽発表会	年少：ハーモニカ、合唱、合奏 年中：同上 年長：木琴奏、合唱

図表Ⅳ－2には一例のみを挙げるが（巻末の補表7を参照）、発表会の呼び方はミニコンサート、音楽発表会、生活発表会、劇発表、ダンス発表、クリスマス会、卒園の会、お遊戯会などと幅広く、内容も合唱、合奏、劇、ダンスと対象年齢に合わせた表現活動が展開されている。

月毎に行われる「お誕生会」における発表会（図表Ⅳ-3）では、クラス毎や学年毎と発表形態も様々である。内容としては、お誕生会やミニコンサートは、日々の保育の中で練習してきた内容を発表する場であり、園児のみならず保育者もパフォーマンスを行う場合がある（図表Ⅳ－4）。また、会館を使用しての大掛かりな発表会では、専門講師に指導を受けてきた作品を発表するなど、それぞれの園の教育方針に沿った伝統的な活動として発表会が存在している。また、特異なプログラムとしては、手話劇、英語劇、J-POP、ハンドベル、和太鼓などと幅広い。

図表Ⅳ－３　園のお誕生会における発表会の実施状況



図表Ⅳ－４　お誕生会における発表会の内容

パターン		具体的な回答
先生主体		• 先生からの出し物（ペープサート・人間劇 etc.） ※先生は月毎に司会も担当
子ども主体	年長	• 学年ごと１曲ずつ月の歌を歌う、ただし、年長は詩の朗読 • 年長が下の子たちに“おめでとう”の歌や出し物を行う • 年長からハンドベルの演奏
	全学年	• クラス別にお誕生会を行う • 童謡を楽器と合わせて発表 • 子ども主体（月毎に子どもたちが分かれ、司会や出し物を発表） • 各学年で順番に歌を披露する • １クラスずつ歌や踊りのプレゼンをする（5 分程度）

なお、ダンスパフォーマンスに関しては、いずれの園も発表会の中だけではなく、運動会においても行われている（巻末の補表8を参照）。

このように、保育現場では様々な形態の表現活動が行われているため、短大の2年間の中でも幅広い知識を学生に与えていく必要がある。そして、発表会で行われる多岐にわたる活動、例えば、音楽・台詞・踊りを用いた劇やオペレッタといった様々なジャンルの表現活動が、保育の仕事の重要なポジションにあることを学生に気づかせなければならない。また、そのための学びの努力の必要性も繰り返し伝えると同時に、教員も保育現場の活動実態を知った上で学生指導にあたることの重要性を改めて実感すべきである。

4. まとめ

本稿は、保育現場の音楽表現活動をテーマに、本学卒業生へのアンケートを通して明らかとなった実態とそれらに照らし合わせた教育のあるべき姿を考察した。その結果、以下の3点を結論として得た。

① 童謡・遊び歌は、保育現場の音楽活動の中核をなし、幅広く活用されている。保育の仕事に携わろうとする学生にとっては、多くの童謡・遊び歌を習得し身につけることが重要といえる。そのためにも、養成校の音楽教育においては、現場での実践的活用に繋げる指導が必要である。

② ピアノの単独演奏は、保育現場の音楽活動において現状ではそれほど活用されてはいない。しかし、多くの保育者は短大での音楽教育においてピアノの習得の必要性を感じており、保育の仕事上の実態と意識は同じではないとの結果であった。ピアノは、童謡の伴奏に用いられるなど様々な音楽活動の基礎的要素であり、感性を養うためにも必要である。また、ピアノの基礎技術は、必要となった時に容易に習得できるものではないため、養成校の音楽教育の位置づけとして、ピアノ教育は重要なものといえる。

③ パフォーマンス活動については、各園の教育方針のもと、様々な形で創意工夫された活動が行われている。音楽という側面から見ても、その内容は多岐にわたり、保育者が仕事の実践力となる幅広い表現力を身につけることが必要であるため、養成校における教育も、現場の活動形態を知った上での指導が行われるべきである。

5. 本稿の結び・今後に向けて

今回の研究において、保育者を養成する短大にカリキュラムとして組まれている「音楽」の位置づけはどう在るべきか、ということについて改めて考察した結果、短大では現場での即戦力・実務の実践力を養うことに力を入れた指導が行われるべきであると感じた。童謡を伝え、遊び歌を伝承するためにもピアノの習得は欠かすことはできない。しかし、2年間という養成期間、そして鍵盤楽器の未経験者が学生の約半数を占める状況で、保育者として子どもと向き合える心と力を持った学生を育成することは非常に困難であることはいうまでもない。だからこそ、音楽とは音を楽しむこと、といった原点に立ち返り、保育者と子どもが楽しい音楽空間を展開していく方法について、教員は現場の声を反映させながら授業で伝えていく必要がある。また、学生の就職先も個々に異なり、限られた授業時間の中で何を重点的に指導す

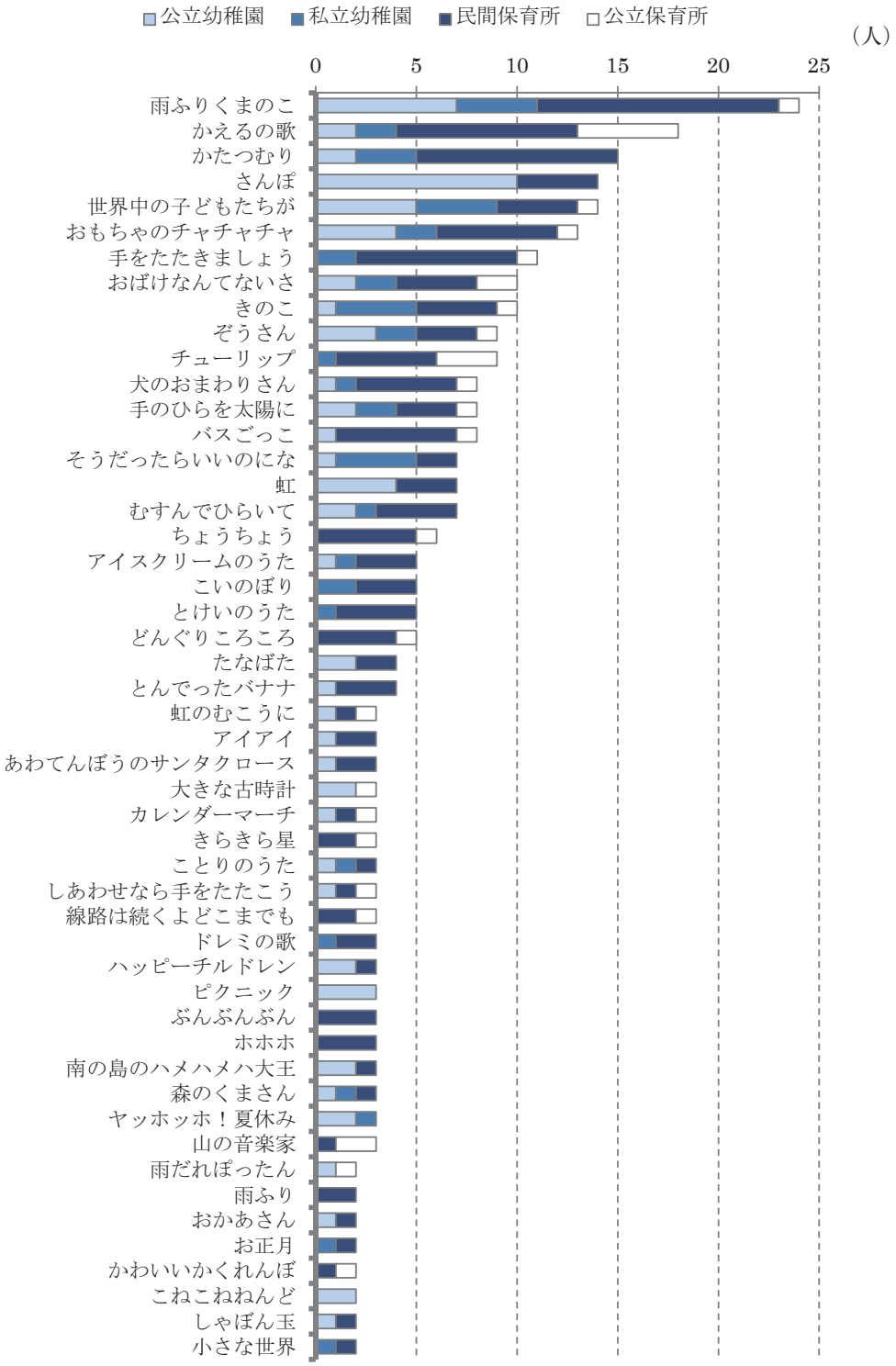
るのかは常に課題として在るが、「音楽」としての授業の側面だけではなく「保育音楽」、つまり保育内容として捉えた音楽表現指導が重要なのである。

今回の研究では、音楽表現活動の中でも童謡を中心に分析したが、今後はパフォーマンス等についても異なる観点から分析を行うことが必要と考える。また、今回の研究に関しても継続的に調査・分析を行い、学生に対して常に現場を意識した指導を心掛けたいと思う。

以上を持って、本稿の結びとする。

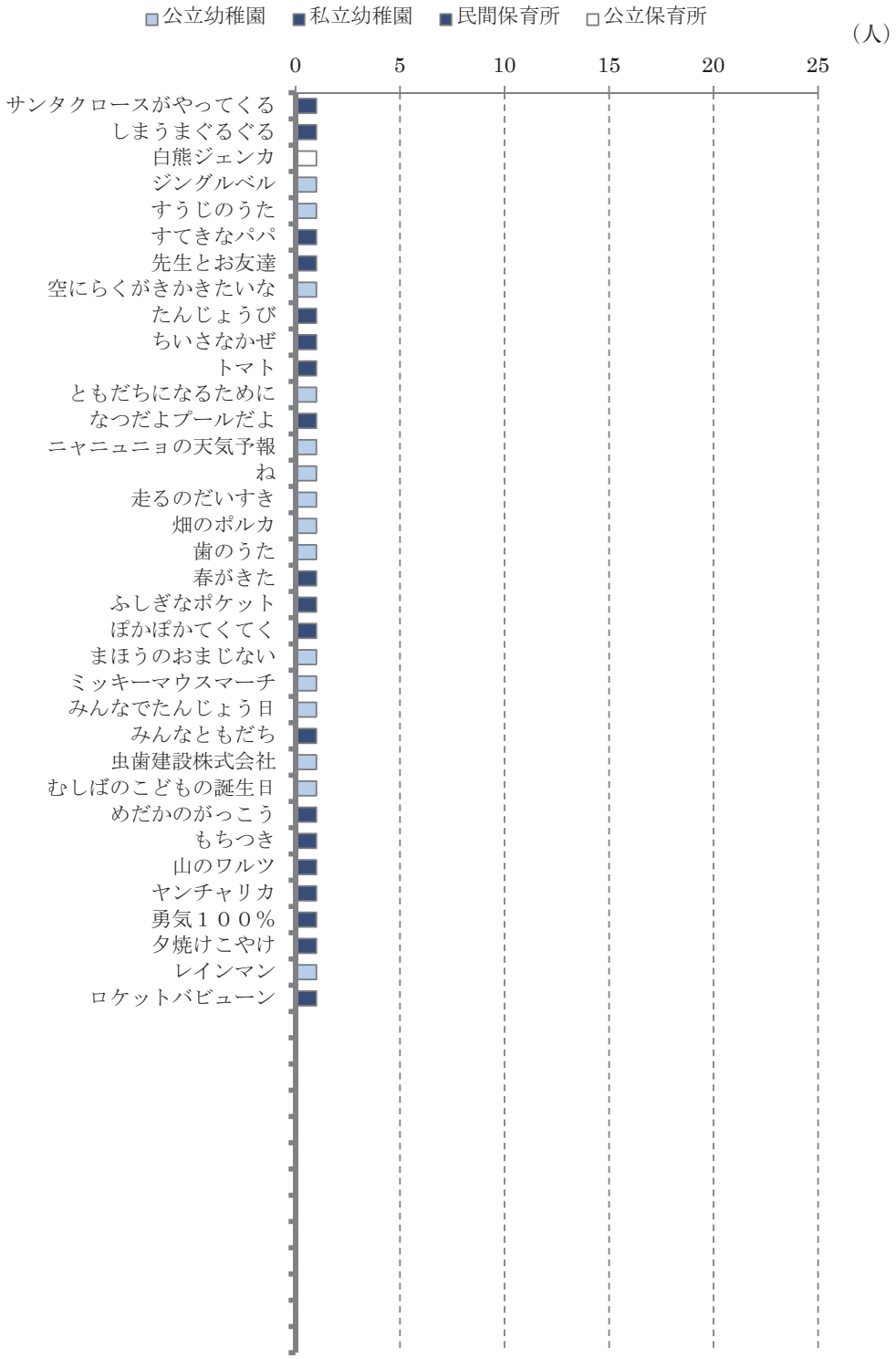
なお、以降には、アンケートで得られたデータの詳細を掲載する。幼稚園・保育所の実態を定量的に見て取れる研究が少ない中、参考程度ではあるが、詳細データを示しておくことは意義があると考えている。

補表１　園で良く歌う童謡／子どもが好きな童謡　#1



補表１　良く歌う童謡／子どもが好きな童謡　#2

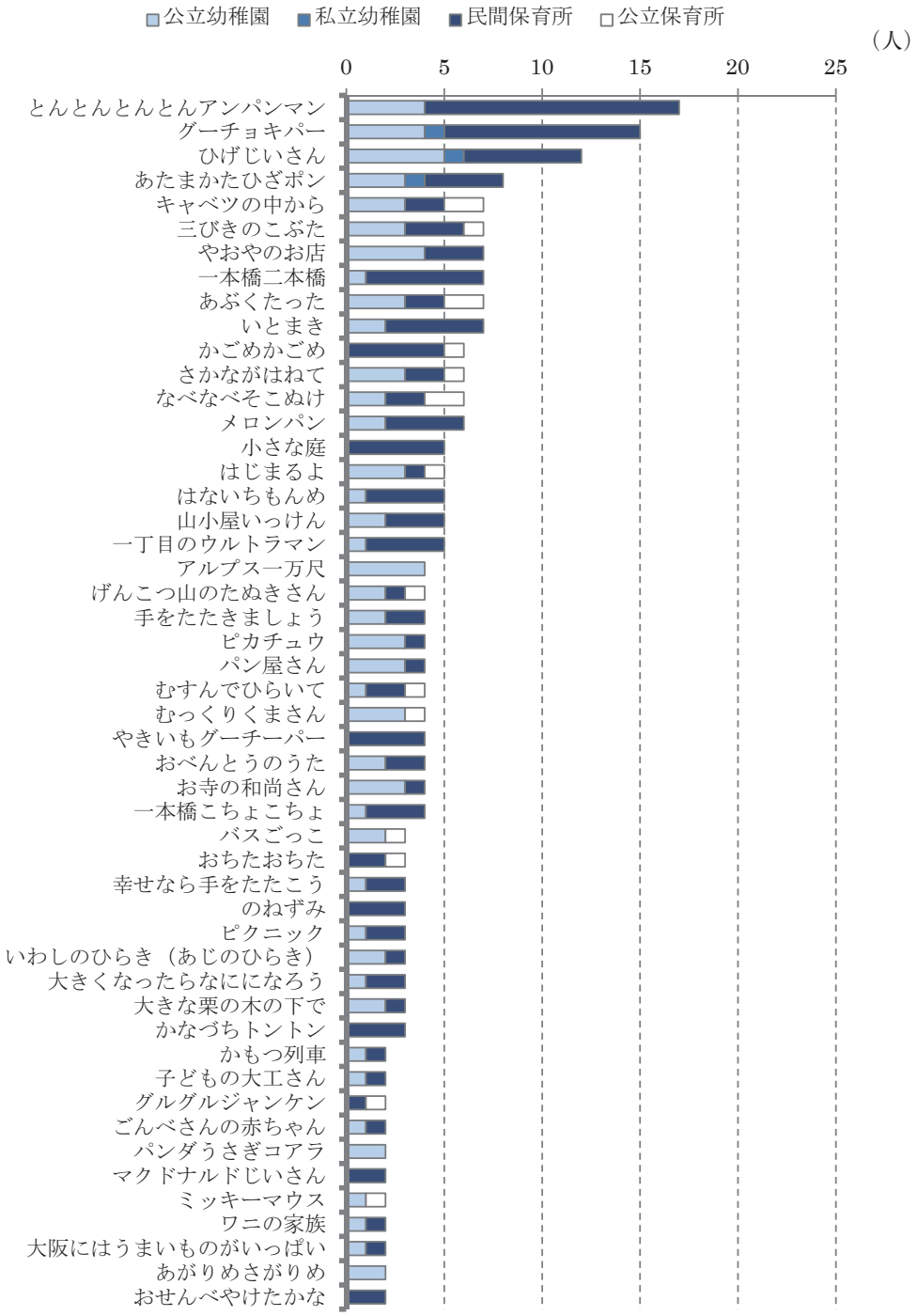
補表１　良く歌う童謡／子どもが好きな童謡　#3



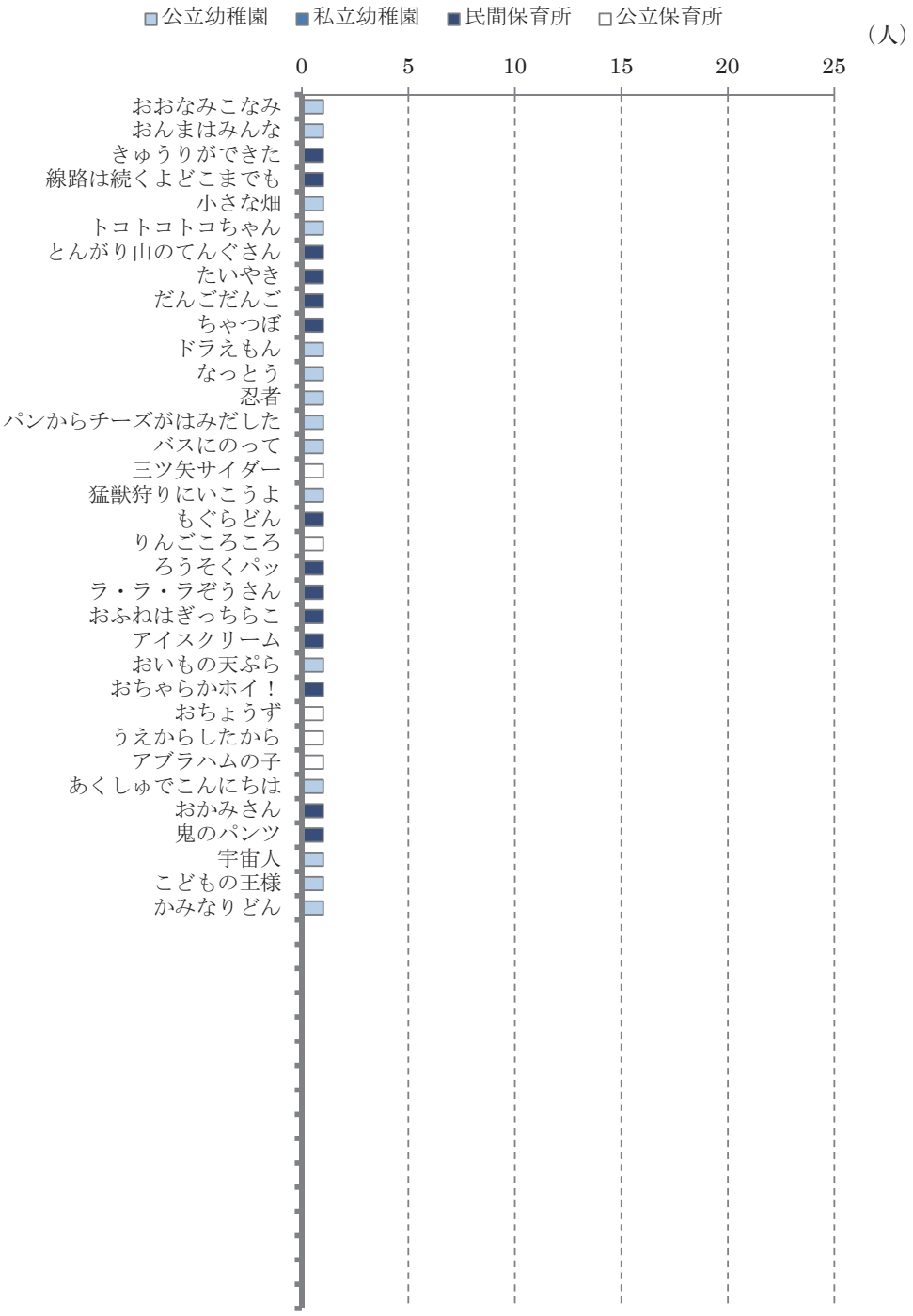
補表２　短大での学びで童謡は必要ですか？　（自由回答、「はい」の回答から）

・日々多忙で現場での練習時間、学ぶ時間がない
・知っている歌が多いと選ぶレパートリーが広がる
・短大で練習した曲は現場でとても役立つ
・少しでも多く練習した方が良い
・童謡は子どもたちが大好きで楽しんで歌っている
・コミュニケーションがとり易くなる
・童謡を知らないと職員の話についていけない
・日々童謡を使うので、習得しておくと保育の幅が広がる
・習得しておけば、いざという時の手助けになる
・レパートリーがあればある程、子どもや園にあった歌を教えられる
・現場に出てからでは遅すぎる
・保育の中で童謡は子どもを惹きつけることが出来、リズム感、表現力を育てられる
・季節の歌ぐらいは覚えておくべきだ
・保育は弾けることが前提で進められる
・現場に出てから初めて聞く曲も多い、どんどん練習する必要がある
・現場でいろいろな童謡を歌う
・歌詞を正確に覚えておく必要がある
・童謡を伝えていくのは保育者の使命
・童謡を知っていることで、子どもの遊び、イメージを広げることが出来る
・歌詞から想像力がつく
・童謡を歌うことで、子どもの気持ちを切り替えられる
・現場に出ると知らない曲が多くあるから
・短大の間にその必要性を学ぶことが大切
・童謡を導入として、制作や行事に取り組むことが多い
・知っている曲と知らない曲では指導の仕方が違ってくる
・毎日、生活の中に歌があり、子どもと自然に口ずさんでいる

補表３　よく使う遊び歌　#1



補表３　よく使う遊び歌　#2



補表４　遊び歌はどのような方法で身につけますか？

※教諭・保育士が遊び歌を身につける方法に関する回答

・先輩から教えてもらう
・保育雑誌（DVD付の雑誌、PriPri、ピコロなど）
・「わらべうたであそぼう」（コダーイ芸術教育研究所・著）などの本
・短大の授業
・短大の友達
・園の先生から学ぶ
・湘北で学んだものが中心（学生時代のものがほとんど）
・手遊びの本を参考にしている
・園の伝統的なもの
・手遊びの講習会や、YouTube（動画は目で見て覚えられる）
・湘北の友達や研修のときに情報交換する
・自分が子どもの頃やっていたもの（小さい頃から知っているものがほとんど）
・園長先生から教えて頂く
・園の顧問指導者の講習から
・NHKのこども番組を利用する
・わらべうたサークルで聞く（月に1回程度）

※子どもが遊び歌を身につける方法に関する回答

・先生・保育士の真似をして覚える
・保育士が楽しそうにやっていると自然に覚える
・子ども達の中で、兄弟のいる子などから伝わって、自然に行っていることが多い
・最初はゆっくり、できる子どもの真似をしてもらう
・年長さんが発表し、下の子どもと遊ばせる
・繰り返し、楽しんでいるうちに覚える

補表５　遊び歌は保育の中で必要ですか？　（自由回答、「はい」の回答から）

・活動と活動の間で行うと子ども達の集中力が高まる
・遊び歌を通してことばを覚えたり、友達と触れ合える
・遊びの中から小さな発達（指などの動き）を見ることができる
・子どもの集中が一瞬で保育士に向き、次への展開がスムーズになる、コミュニケーションがとり易い
・活動の導入でとても必要を感じる（活動のけじめ、息抜き）
・ちょっとした空いた時間に出来、子ども達に楽しんでもらえる
・遊び歌は保育の中では欠かせない
・子ども達が疲れてしまった時、遊び歌で元気になる（盛り上がる）
・子どもを惹きつけることが出来、落ち着いた空気を作れる（目を引くことが出来る／目線を集められる）
・子どもが覚え易く、子ども同士の遊びが自然に広がる（集団遊びへの発展につながる）
・雨の日は遊び歌で子どもたちが発散している
・遊びながらリズムや表現力が身に付く
・異年齢の子どもと一体感が生まれる（みんなで楽しめる）
・物や道具を使わずに保育に取り入れられる
・クラスの雰囲気が明るくなる
・わらべ唄など伝承遊びを伝えることが大切

補表６　短大での学びでピアノ曲の習得は必要ですか？　（自由回答、「はい」の回答から）

・知らない曲を習得していくことで力になる
・ピアノ練習で基礎力がつく（ピアノ技術を学べる、スキルアップ）
・現場である程度のピアノ技術が求められる
・園の行事（ミュージカルなど）で先生が演奏する
・CDを使用せず、すべてピアノ演奏のみである
・保育の中ではあまり必要とは思わないが、曲を弾けることはプラスである
・指を動かす練習や表現の練習になる
・入園式、卒園式でマーチの曲は必要
・BGMとして使用している
・譜面を見てすぐに歌える先生は、保育の幅を広げられる
・楽譜を読むのに慣れておいた方が良い（初心者は特に、指使い、リズム、強弱の練習になる）
・短大でレパートリーが増え、現場で役に立っている（短大で練習した曲は自信を持って弾ける）
・曲をアレンジする際のアイディアに結びつく
・簡単なものは弾けた方が良い
・最近、現場でピアノが弾けない人が多い
・全く弾けずに、現場に出ることはありえない
・ピアノだけは短大の間で身につけておきたい
・就職の採用試験で必要であった
・劇遊びの効果音として使える
・ピアノは苦手で、就職してから大変だったため
・簡単な曲を何曲かストックしておくと便利
・リトミックの際にとても役立つ
・ピアノの音色は子どもの感性を育てる
・個別での指導は今になって自分のためになった

補表６　短大での学びでピアノ曲の習得は必要ですか？（自由回答、「いいえ」の回答から）

・ピアノ曲をやるより童謡をやった方がいい（ピアノが弾けるより歌がしっかり歌える方が良い）
・園でほとんど必要がない
・園によってさまざまなので必要はない
・自分自身の勉強にはなるが、現場では全く使わない
・保育園では、ピアノ曲を弾かない
・弾けた方が良いが、全員が難しい曲を弾ける必要はない
・ピアノ曲より、J-POP、アニメソング、童謡が主なので、必要はない
・ピアノ曲は弾く機会がない
・現場ではCDを使っているので機会がない

補表７　園で実施する発表会の内容　（自由回答の抜粋）　#1

発表会名（例）	具体的な内容（例）
ミニコンサート	年少：　歌とカスタネット、メロディオン（1 曲） 年中：　歌（3 曲）、カスタネット、メロディオン（2 曲） 年長：　歌、カスタネット、メロディオン（長めの曲）
コンサートと劇	年少：　歌（振り付）、手遊び 年中：　劇遊び、歌（子どもから人気の曲）、手遊び 年長：　劇、歌（4～5 曲）、手遊び、詩 ※　台本、ストーリーは担任と子どもたちで考える
音楽会	メロディオン、合奏
生活発表会	セリフ、衣装、大・小道具 ※　先生からの出し物も実施
劇発表	年長のみの劇 ※　先生はピアノ演奏を行う
クリスマス会･ひな祭り会	ダンス・歌・楽奏・手話・劇・オペレッタ ※　各クラスで自由に選択するパターンも存在する。 ダンスや歌、劇・合奏などのパターンがあり、年齢によってやることが異なるケースもある （例） 年少：　曲に合わせて踊る 年中：　劇（CD 使用） 年長：　オペレッタ、創作劇
音楽発表会	メロディオン・楽器の演奏 ※　伴奏は担任が実施 （例） 年少：　音楽劇、合奏、合唱 年中：　劇、合奏、合唱 年長：　オペレッタ、合奏、合唱
ダンス発表	・1 クラスを 7～8 名に分けて実施するケース ・年に 1 度、文化会館などの大型ホールで、大太鼓などの楽器演奏と合わせて行うケース ・お遊戯会（12 月開催）の中で発表するケース

補表７　園で実施する発表会の内容　（自由回答の抜粋）　#2

発表会名（例）	具体的な内容（例）
クリスマス発表会 （キリスト教園）	年少：　劇 年中：　劇遊び、歌（子どもから人気の曲）、手遊び 年長：　正劇 ※　その他、キャンドルサービス、ページェント、讃美歌合唱など
地域系のお祭り	和太鼓の発表
卒園の会	ハッピーフェスティバル（歌と劇）
音楽会	小音楽会：月 1 回 音楽会：12 月 お遊戯会：2 月
お遊戯会	年少：　ダンス 年中：　CD を使い舞踏劇 年長：　セリフを録音して舞踏劇
音楽発表会	12 月に開催 年少：　ハーモニカ、合唱、合奏 年中：　同上 年長：　木琴奏、合唱
ひな祭り会	年少：　お遊戯 年中：　劇、遊戯（2 曲） 年長：　同上 3 歳児：　手作り楽器で踊りながら発表 4 歳児：　物語劇→最後に合唱 5 歳児：　物語、朗読、最後に合唱 全クラス：　遊戯、歌 年少：　上記＋和太鼓 年中：　同上 年長：　同上＋劇
七夕音楽会	各クラスで歌、合奏、ダンス

補表７　園で実施する発表会の内容　（自由回答の抜粋）　#3

発表会名(例)	具体的な内容(例)
幼保合同発表会	ハンドベルの発表
クリスマス会	4 歳児：　歌と合奏 5 歳児：　ハンドベル＋劇
ちびっこコンサート	10 月に開催 年少：　ダンス 年中：　タンバリン、カスタネット、演奏 年長：　太鼓
お遊戯会	2 月に開催 各クラスで劇発表 （例） 年少：　お遊戯、CD に合わせて踊る 年中：　繰り返し実施されている劇（大きなかぶ、桃太郎など） 年長：　劇（ピーターパン、白鳥の湖など） 担任がすべてピアノ演奏をする
夏祭り	よさこい
秋コンサート	ピアニカ演奏
クリスマス会	オペレッタ
音楽会	2～5 歳を対象 保護者も参加し、童謡を歌ったり、楽器で合奏を行う

補表８　運動会におけるダンスパフォーマンスの実施の仕方

幼稚園のケース

・学年ごと
・クラス単位
・全園児でのマスゲーム
・オープニングパフォーマンス
・年中／年長が合同パフォーマンス
・年中のみ行う（年長は組体操）
・各クラスと縦割りの全体で行う
・バトンを使ってダンス
・先生たちの考えをまとめ、園長が最終決定
・パフォーマンスは年少と年中、年長は鼓笛隊

保育所のケース

・乳児（2才児）と年少児は合同
・3才以上が行う
・0～3才は親子でのふれあい体操、4、5才はお遊戯
・2才は親子で
・子ども一人ひとりの成長がわかりやすい曲（低年齢はかわいさ重視、4才は出来を重視、5才はかっこよさを重視）

※）なお、アンケートを通して得られた、ユニークな選曲として以下を挙げる。
・モンスター（嵐）
・ジョイフル（いきものがかり）
・アララの呪文（ちびまるこちゃん　エンディングテーマ）
・すてきな日曜日（芦田愛菜）

保育現場の音楽表現活動の実態と短大教育の在り方に関する研究

A study on music activities at nursery schools and a state of the junior college education

Megumi OHNO　Hiromi AKAI

【abstract】

The purposes of this study are, (1) to understand the actual conditions of music activities for children's songs and action rhymes, in addition, nursery teachers' piano skills, and (2) to consider what is required in education at junior colleges to train nursery teachers, referring the actual music activities at nursery schools. The questionnaire data from the graduates shows that music activities are emphasized at nursery schools. We discuss the importance of music education and realize the needs for college students to learn more practical teaching contents and methods to train nursery teachers.

【key words】

music activities, children's songs, action rhymes, piano skills